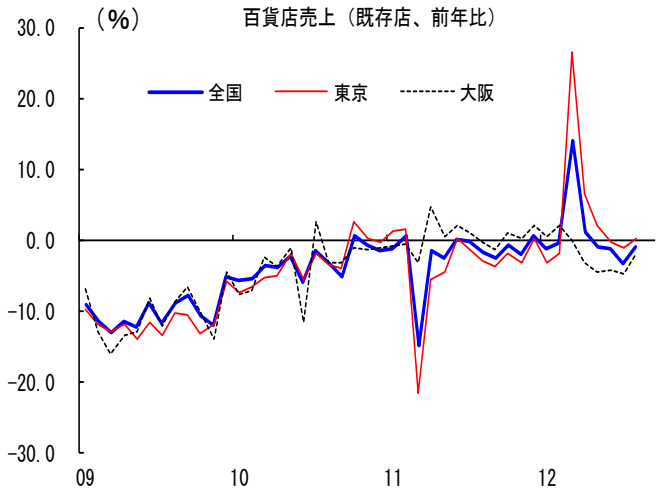
Economic Indicators

定例経済指標レポート

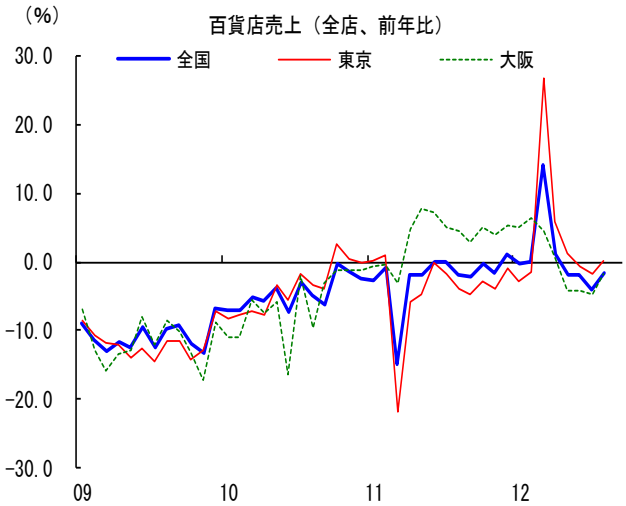
指標名：百貨店売上高(2012年８月)
～猛暑が追い風も、前年クリアならず～

発表日：2012年９月20日(木)

第一生命経済研究所　経済調査部
担当　エコノミスト　星野 卓也
ＴＥＬ：03-5221-4526



（出所）日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」



（出所）日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」

○８月の百貨店売上高は前年比▲1.0%

８月の百貨店売上高（全国）は前年比▲1.0%（既存店ベース）と、７月（同：▲3.3%）から減少幅を縮小した。７月までは天候要因によって低調であった夏物商材の売れ行きが、８月の猛暑の影響で持ち直したことが背景となっている。しかし、高額消費が弱い動きとなったことなどから、前年水準をクリアするには至っておらず、回復感は乏しい。消費者マインドの回復鈍化や夏のボーナス減少などが、百貨店売上高に悪影響を及ぼしている可能性が示唆される。

品目別にみると、身の回り品（前年比：▲0.9%）や雑貨（同：▲2.0%）、食料品（同：▲1.4%）など、多くの品目が前年を下回っている。美術・宝飾・貴金属も同▲2.5%と、２ヶ月連続の前年割れとなった。震災後に好調であった高額消費も、ここにきてやや減速気味である。一方で、主力の衣料品は、夏物の売れ行きが持ち直したことを背景に、同＋0.2%と前年を上回った。しかし伸びは小幅であり、販売額全体を牽引するには至っていない。

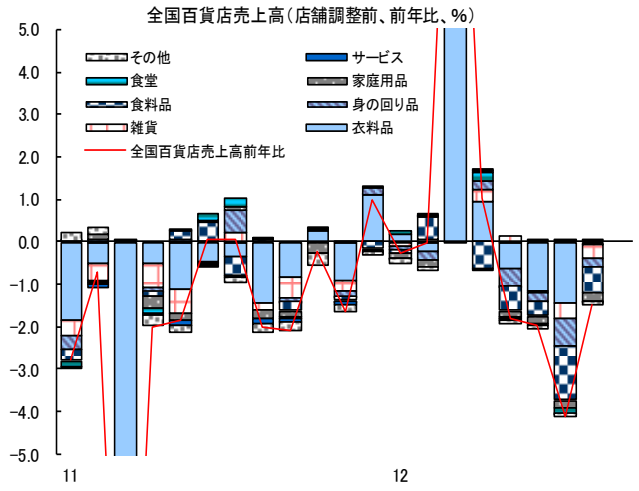
○個人消費を取り巻く環境は厳しい

このように、８月の百貨店売上高は夏物商材の販売が好調に推移したものの、全体としては回復感に乏しい結果となった。８月の個人消費動向を把握するためには他統計の発表を待つ必要があるが、これまでに発表された統計を見る限りでは、目立った回復は見込み難い状況にある。

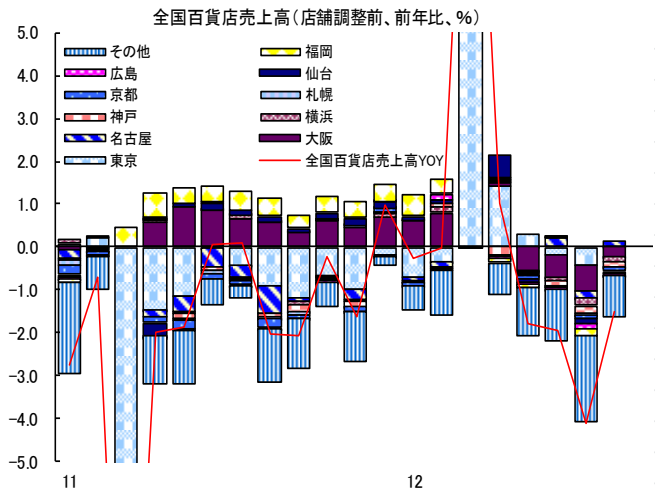
９月以降の個人消費についても、力強い回復は期待しづらい。エコカー補助金効果で好調であった自動車販売は、８月時点で既に大幅な販売減が確認されている。制度終了後には、更に水準が切り下がる公算が大きいだろう。また、雇用・所得に目立った回復が見られないことに加え、厚生年金保険料率の引き上げや首都圏での家庭向け電気料金の値上げが、家計の実質可処分所得を押し下げる方向に働くこととなる。このよ

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

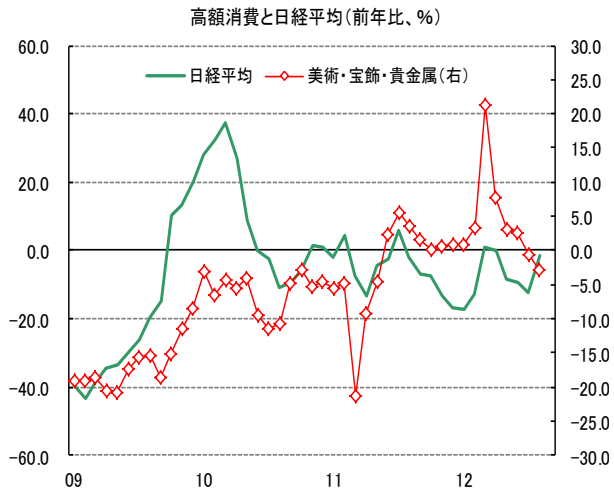
うに家計を取り巻く環境が厳しさを増す中において、先行きの個人消費は低調な推移となる可能性が高いだろう。



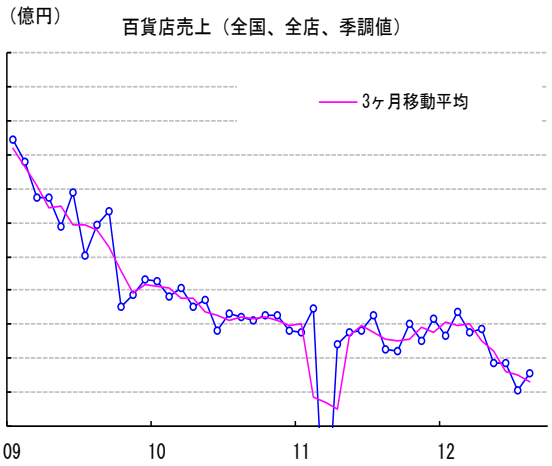
（出所）日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」



（出所）日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」



（出所）日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」、日本経済新聞社「日本経済新聞」
※（美術・宝飾・貴金属は店舗調整前）



（出所）日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」
（注）季節調整は第一生命経済研究所

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。